

[066_03]Keizaigaku=Kenkyu (Journal of Political
Economy)

<http://hdl.handle.net/2324/4362567>

出版情報：経済學研究. 66 (3), 1999-12-31. Society of Political Economy, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



序

近昭夫教授は、平成11年11月27日に華甲の歳を迎えられる。九州大学経済学会は、心から祝意を表すために、記念論文集を刊行する。

近教授は、昭和33年4月から昭和42年3月まで、北海道大学経済学部と同大学院経済学研究科において、内海庫一郎先生のもとで統計学研究の道に進まれ、昭和42年4月に静岡大学人文学部に新進の統計学研究者として赴任された。静岡大学において、27年間、研究と教育に尽力された後、1994年4月、嘱望されて本学部教授（政策分析講座：統計学担当）に着任され、今日に到っている。

社会統計学の研究対象は、統計作成にかかわる統計調査と統計利用にかかわる統計解析であって、わが国における統計学研究の立場は、統計調査法と統計解析法を社会経済研究の認識方法として捉え、その科学的合理性を吟味、批判することによって、社会科学的な統計方法の構築を試みる統計学＝社会科学方法論説と、統計作成と統計利用を統計実践の社会的過程として措定し、その歴史的社会的性格と技術的組織的性格を解明せんとする統計学＝統計現象の社会科学的考察説に分かれている。先生は、経済統計学会の指導的研究者の一人として、前者の立場から、主として、経済研究の実証分析や計量分析において一般的にもちいられている統計解析法、とくに時系列解析法と統計的推論法の批判的研究を重ねられてきた。研究のスタイルは学説史的な考察によって、近代統計理論や計量経済学が生成してきた統計解析法の科学的妥当性を検討する科学認識論的な方法である。その研究成果は、教授の学位論文である『統計的経済学研究－計量経済学の成立過程とその基本課題－』と『チュプロフの統計理論』に結実しており、研究対象は、一方では、近代統計学の定礎者であると言われるケトレーの社会物理学を継承し、イギリス生物統計学の影響を受けた統計解析法論から現代計量経済学の統計的推論論に、他方では「大陸統計学派」の大数法則論に及んでいる。また、近教授は、統計学方法論争や実証的な研究プロジェクトにも参加され、現代的な実証経済学にたいする統計解析法の意義と限界を具体的に考察することによって、社会科学の認識と統計的認識の関連性を問う基本的な課題を提起しておられる。

近年、教授が、広い見識と鷹揚な人柄を見込まれ、経済統計学会代表として、あるいは本学会会長や本学評議員として多忙な日々を送られている折り、提起されている研究課題の現代的な重要性を考慮するとき、ご自身の学理追求に倦むことのない先生のご健康とご発展を記念する次第である。

平成11年11月11日

九州大学経済学会